市川学園第三教育センター通信

実況中継「土曜講座」

第１６号　　２０２４年2月２４日発行

市川学園 2月 17日の土曜講座　於 國枝ホール

堀　俊輔 先生

「 指揮者、

その未知なる世界を知る…。 」

堀　俊輔　先生のご紹介

1950 年　大阪市生まれ。早稲田大学卒業後、東京芸術大学に入学し、指揮と作曲を学ぶ。

1987 年　東京交響楽団に入団し、東響コーラス（プロ合唱団）を結団し、創立指揮者となる。

1990 年　東京交響楽団副指揮者として、特別演奏会で正式デビュー。

1991 年　同オーケストラ世界ツアーに同行、ニューヨーク州シラキュース交響楽団の定期公演を指揮し、米国デビューを果たす。

1998 年　文化庁在外研究員として、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場で、レヴァイン、ゲルギエフといった有名指揮者の下で研鑽を積む。

そのほか、海外でも大活躍をされており、サンクトペテルブルク音楽祭出演、プロコフィエフ国際指揮者コンクール審査員、リスボン市交響楽団客演等、ロシアからヨーロッパ全域へと幅広く活躍されている。また、国内でも、ほとんどのプロオーケストラを指揮し、好評を博す。

主な講義内容の紹介

第 8 回土曜講座は、内外で活躍をされていらっしゃる指揮者・堀俊輔先生より、「指揮者、その未知なる世界を知る…。」という題でご講演をいただきました。堀先生は、「指揮者」とは、1500 円の指揮棒さえ持てば誰にでもなることができる、その一方で誰にでもなれるものでもない、というとても不思議な職業、という点から終始ユーモアあふれるお話をいただき、あっという間に時間が過ぎてしまいました。途中、オーケストラ部による楽器紹介や、指揮者体験にて、1 年生古賀さん、秋山君、2 年生春木君、そして美術科の北圃先生にもご登場いただき、指揮の奥深さについて存分に解説をいただきました。指揮者になるには、あらゆることに興味を持ち、音楽はもちろん目の前の勉強を一生懸命することが何より大切であること、ということとともに、皆さんとは初めて会ったのに、もう昔からの友人のように楽しい時間だった、それは「音楽」のおかげなのだ、というお言葉も印象に残りました。

受講レポートから

・　指揮者は特殊な音楽家であることが良く分かった。棒一本だけで音楽を伝えるため、目の前の楽譜がすべて頭に入っていて当たり前なのだ、と思った。周りのあらゆることに興味を持つことを心掛け、普段からの勉強もしっかりやることが大切だと分かった。　（中１女子）

・　今まで思っていた以上に指揮とは奥が深いものと知り、びっくりした。楽しく音楽を伝えるためにはたくさんの努力なしではできないし、それは指揮者だけでなく、自分の夢を持つことにも必要なのだと感じた。堀先生の指揮は、会場や楽団を盛り上げる役割もあり、とても楽しく聞くことができた。体全体で音楽を表現していたことがすごかった。（中２女子）

・　指揮は「オーケストラ」という大きな音楽を演奏する、という言葉がグサッときた。クラシックは迫力がすごい！とあらためて思えた。　（中２女子）

・　合唱祭が近いので、興味を持ち飛び入り参加しました。指揮はオーケストラの方向性を決める重要な役割であることがよくわかりました。正直、クラシック音楽には「声」がないので少し苦手意識がありましたが、これを機に「おもしろいな、聞いてみようかな」と思うようになりました。また、合唱祭でも指揮者をよりよく見て歌おうと思いました。（中３女子）

・　指揮者は棒を持つ手だけでなく、全身で音楽を表現していることが演奏を通じてわかった。指揮者の動きに呼応して演奏者が強弱などを変えて演奏しているのを見て、一緒に音楽を作り上げようとしていることがひしひしと伝わってきた。　（中３男子）

・　ゆったりとしたお話の中にユーモアがあり、面白かった。これも指揮者として大切なことなのかと感じました。堀先生が指揮されるオーケストラの音には迫力があり、圧倒されました。オーケストラ部の人たちもカッコよく、実演があったため、わかりやすかった。もっと堀先生のお話を聞きたかったし、先生の演奏会に行ってみたい。今日たくさんすてきな音楽を聴いたので、夜ご飯が楽しみ。堀先生のような人間になれるよう、頑張って勉強しようと思う。　（高１女子）

・　たとえを用いて面白く楽しく、大切なことはしっかりと伝えてくださり、本当に参考になる講座だった。思い切りと、冷静さと、両方が必要な芸術だけではなしえない素晴らしい職業なのだなとあらためて感じた。「指揮台の上に立つとすごく幸せになれる」とおっしゃっていた先生の指揮は、今まであまり指揮者に注目してこなかった私にもすばらしさがわかるものだった。（高２女子）

・　指揮の安定感によってオーケストラの鳴りの良さが変わることがよくわかった。私も楽器演奏をする身として、指揮によって吹きやすさが変わる感覚や、指揮をした時の難しさ等は共感する部分があった。指揮をするにあたって、必要な勉強の側面、スコアリーディングやオーケストレーションのお話なども詳しく伺いたいと思った。（高２女子）

（文責：武井　大輔 先生）